

快感!
生挿!

カミカミ



片耳豚
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

快感！
生還！
カ/イ/キ/ク

専任慰問

それは、帝国が秘密裏に採用しているシステムである。軍に多大な貢献をもたらした上級将校にのみ、その制度の行使が認められる。

指名された士官は、規定された期間をその将校に捧げなければならぬ。これは軍命としての強制力が発生する。

セルベリアにとってもそれは例外ではなく、一人の将校に異常な執着をみせられる。数々の陵辱に曝されるセルベリア。彼女の淫夜はまだ終わらない。

やめ………
駄目だ………
そこだけは………

あの時の大佐は
それはそれでは可成りしかつた

何を指名するのは
精進から大佐だったよ
どうなの？ 誰か選んであげないかな
誰かがおに選任を出したのかな？

いいいい………
私を指名されるのは
嫌です………

指定からすんなり選んで大佐
としても大佐のモノとは思えない

何々しい………
これが………
この三日間は任務である
断るな………

どうして俺らは
こんなにも……

オイ真面目にやれつて
どやされても
つまんねえだろ……

辛い動めを
せにやならぬ♪

あいあい♪

あ？ ああ……
よく言われてんなソレ
最近妙に艶っぽくなつたつて
そんな話だろ

そつえばさあ
最近の大佐つてよ
なんかこう……

そうそれ！ いやあ……
でも実際堪らんよな
あの爆乳にあの尻！

だからやめとけつて……
聞くヤツに聞かれたら
それこそ営倉送りだぞ

まあまあいいじゃんよ
どうせこんなとこまで
見回るような物好き
いやしねえよ

……



大丈夫だつて
こんなん皆言つてるぜう？

お前……ソレは
本気でやめとけよ
ふたり仲良く
揃つて別荘送りは御免だぜ



大佐の噂といえはさあ……
お前聞いたことない？
例の特別任務



文字通りの
体をはつた任務つてわけだ！
やべえ興奮してきたう



アノ大佐がどうかの
高級将校に玩具に
されてるつてなあ……
眉唾もんだと思うがなあ



あの胸も尻も
好き放題にできるんだろ
羨ましいなんてもんじゃないつての
あやかりてえあやかりてえう

……マアそうだな



まあどちらにせよ
俺らには関係ないおハナシだな

噂が本当だったらな

ん…

閣下……こんな所では……
誰かに……んっ
見られるおそれが……

あ…

おおそうか…私としたことが
つい年甲斐もなく
気が急いでしまったな

あ…

ふ…

それほど焦らずとも
今日からじっくり
楽しめるといふのにな

そ…それは

それでは賭けの約束通り
今日の任務が終わったら
私の別荘に来なさい

し……しかし
閣下……

ああ安心なさい
上層部には話を通してある

っ——
了解……
しました

あの日以来——
この醜悪な男に徐々に
逆らえなくなっていく自分を
私は……自覚していた

あの日——
私が賭けに負けた
あの日以来……

どうだろう大佐？
一つ私と賭けをしないかね？

賭け……ですか？

そっだよ
私と大佐との関係を
賭けての勝負だ

慰問期間も今日で終わり
明日になれば二人は
ただの上官と部下に
戻ってしまうだろう？

あ……そうで……す
今日で……んんっ

あ……

はっ

だから賭けをしようじゃないか
賭けに負ければ私は
今後一切君に慰問任務を
言いつけないと誓おう

それは……本当に……？

勿論だとも約束は守るよ
ただしそれもこれも
君が賭けに勝ったらだが

なに簡単だ——今日一日
君が一度もイカなければ
それだけで君の勝ちだよ

賭け……とは……
いったいどんなことを

——なっ!?
イっ——たら?

ただし一度絶頂に達するたびに
君は自身の一日を無償で私に
差し出してもらおう

くっ——!
そ……そんな……

なに——簡単だろう
誇り高い君なら
容易く耐え切ると思っただが？

うあ……
し……しかし

い……いかん駄目だ
この二日間で
体が昂まっているのに
そんな賭け——!

フフー今の……
浮らにされてしまった体では
とても耐えられないかい？

そーそのようになっ
んんうっ！

ハハハ——君のこころは
相変わらず素直だね

無理はいかんよ大佐♪
しかしそうだな……
では少しハンデを付けるかね？

ハ……ハンデ？

く——口惜しいのに
言い返せん……っ
自分の体がまるで
思い通りにならない

そうだよ大佐ハンデをつけよう
今日一日は君が望まない限り
私の一物を君の内には
挿れないことにしよう

挿れ——ない？
本当に……

ああそうだ……約束だ
君の口からイレてくれ
とても頼まれぬ限りはね

ああ安心なさい
約束は必ず守るわ

んん？ どうしたね大佐
まるで発情したみたい
に
しっとり汗ばんで？

今日から私は……
い——一日中この指に……
この男に……

んん？ そうかね
ハハハ——私の気のせい
か

では大佐
また後で

この指で体をまさぐられると
私の体は時分の意思を
あっさりと裏切ってしまう……

は……

あの日の賭け——
いや……最早アレは
賭事などと呼べるものでは
到底なかった……

舌を噛んでも耐え切る——
などという考えで勝負に挑んだ私は
すぐにその男の狡猾さを
思い知らされることとなった

今までは私に望まぬ快感を
与えるだけ与えてきたことも
その日の賭けを持ち出すための
下準備だったのだ

私はその日その時まで
「焦らされる」ということを
されたことがなかったのだ

この期に及んで私は
自身の体の反応を
この男に完全に掌握
されていることに気がついた

耐える——この一步手前で
頂きから引き下ろされる……
しかし緊張を解く間もなく
再び寸前まで昂らされる

感覚の着地点を完全に
見失わされて延々と
廻り続ける——

奥には決して触らず
浅い箇所をひたすら
挟られる——

朝から日暮れまで——
時間感覚を失った私が
完全に屈服したのは
丁度その頃だった——らしい

感覚の上下幅に
思考や意思が追いつけない

溶け崩された私の体は
その瞬間——この醜悪な男の
肉玩具に墮とされた

うおっ、挿れた瞬間に
フフ……これですは
君の一日は私のものだ

おおっとまた一回！
んん？このままだと次も
——おおまた一回だ

さて大佐……それでは約束通り
決められた日数を
君からいただこう♪

日付が変わる頃までに
私は己の生涯から
二十八日間を切り取られていた

賭けによって決められた期間
慰問の任務ではなく
自らの意思で己を差し出す

さあ
入りましたまへ

震える体を意識から追い出して
あの男の——自分の所有者の
家へと向かう

おお！ 素晴らしい……
特注で作らせた甲斐が
あったというものだよ

てっきり嫌がられるかと
思っていたが——
気に入ってもらえたかな？

謙遜することはない
期限付きとはいえ今日から
この美しいモノが私の物に
なると考えると堪らんよ

白々しい……
逆らえば無理やり
着せるだろうに

いえ……しかし
このような格好
私には不釣合かと……

今日から二十八日間も
こんなはしたない格好で……

さあ早速だがこちらに来て私の足元に跪きなさい

あ……はい……
了解しました

跪いたら目を閉じて……
ん？ 少し言い方が堅いか
まあ……そこもオイオイだな

こんな格好で何をさせるかと思っただが——
案の定下衆な命令だ……

さあ目を開きなさい

こんな男に跪かなければ
ならないとは……

これが今日から
君の御主人様だ

ああ……凄い——
こんな間近に……
匂いが……ここまで届く

さあ大佐……それに口づけして
忠誠を誓いなさい

くち——っ！
く……口づけ……ですか？

ああ……屈服の誓いだ……
そんなことをしたら
今度こそ戻れなく——

口には出さなくていい
今日からセルベリアは
このオチンポにその身を捧げ
いかなる時も発情しきった
雌奴隷になると心で誓うんだ

はっ

はっ

おあっ

誓うのか私は？
誓ってしまうのか？
今なら——今ならまだ
ああでも……この匂い

助けてくれ……誰か
もう私は自分では……
この匂いに……逆らえない……

ちか……います♡

さあセルベリア……
君の新しい主人に
その顔を見せておくれ

ああ……

んっ……

その日から私は
本当に戯れに罵られた

「ひゅ……じん様ア
そんなことをおおお
掃除がつでき……
あつあつ——あああああつ！」

昼間はメイドの真似事を
させられながら——

気にせず続けなさい
新しく汚れたところが
全部綺麗になるまで
続けるんだよ

主人の求めるままに
その屈服した体を差し出す

おお——そういえば調べ物が
あったのを忘れていた
あとで書斎に來なさい

は——いい……
かしこまり——ましたあ……

どんな時でもどこに居ても
まるで雌犬のように尻を振り
欲望を受け入れなければならぬ

特に胸は執拗に揉まれた
それこそ一日中揉み込まれ
胸だけでも絶頂を決められるよう
重点的に躰られた

あ♥せんなんに♥
しほりた♥い♥

むね♥フッ♥ああ♥
い♥ました♥

胸の調教を受けて三日目で
私の胸は荒々しく揉まれながら
乳首を転がされると
呆気無く達する淫乳に
仕立て上げられた

汚らわしく忌むべき男に組みしだかれ
舌で口内を舐め回されるのも
私の鳴き所だった――

舌を舌でねぶられると
嫌悪感と快感の入り交じった
堪らない感覚に感乱する

私の体の隅々を這い回った
舌にすら体は隷属していた

しかしなかでも一番に
強烈だったのは
口での口辱奉仕だった――

あああ……
匂い……すごい

御奉仕――致します

舌を這わせるだけで
その味を教え込まされる度に
私の中にある何かが
少しずつ剥がれ落ちていく

御主人様の――おチンポの匂いは
私の何もかもを淫靡にってしまう

ふあい……
これへ――
よろひいれひようか？

御主人様の精液が吐き出されると
もうダメだ――

んんう！
んんう！
んんっ！

もう体が勝手に
チンポを欲しがるように
疼き始める――

そして夜は——
むき出しにされた私のケツ穴を
御主人様が荒々しく貫き犯す

いつも私がどんなに鳴き叫んでも
御主人様は自分が満足するまでは
決して私のケツ穴を開放してくれない

そして昼間の復習とばかりに
両点だらけになった私の体を
同時に襲り尽くす

一週間で私は心の底から
許しと服従を乞うた
今ではたくましくゴツゴツとした
オチンポを見せられると
それだけで跪きそうになる

切り取られた二十八日間——
その重みを自覚したときは
もう手遅れだった……

尻穴奴隷として——
私は締め取られたのだ
おそらくもう……
自力でこの快感から
逃れることは出来ないだろう

しかし何故か……御主人様は
私の意思の最後の一線を越えさせない

ああ本当に君は素晴らしい……
だから今日はここまでだよ
明日までにはある程度
自分を取り戻しておくれよ――

意識を失う狭間で
うっすらと聞いた御主人様の言葉

戦乙女セルベリア――
私はそんな君を
汚して沈して穢し尽くしたいんだ

だから君は君のままで……
正気と淫欲の狭間で
感乱する様を見せておくれ

私の淫獄は――
どうやらまだ終わりそうにない

あとがきのなかんじでございます。
どうもです寒“レッドブル飲み過ぎ”衣屋です。
今回はまあ、まんまです。
大佐がね、もう大変だよね。
でもまあ今現在はこんな感じです。
調子にのって続きものをカンジですが如何だったでしょうか？
個人的には体が痛くてドドンマイな制作風景でした。

では時間も時間なんでまた。

ああそれにしても大佐可愛い。
多分世界で12番目くらいに可愛い。

こんなところまで読んでいただき
まことに感謝の念にたえません。
寒衣屋でした。

PS:すごーい肩痛杉!



奥付

発行 / 片耳豚

印刷 / コムフレックス

発行日 / 2010.12.31

連絡 / katamimibuta@yahoo.co.jp



valkyrja of the battlefield
next Strategy
once again desire
It works hard!

You say what?

